

## 令和2年度版 改善計画

学校名：山梨県立ろう学校

No.	項目	現状と課題	R2年度に目指すべき状態	① R2年度に実施する内容 ②R3年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	5つの学部が設置されているので、会議や研究会等が多い。また時間の長い会議もある。	会議時間の短縮や会議の効率化、回数の削減をおこなう。	① 会議等を精選し、「きずなの日」を月2回完全実施する。 ② 事前の資料配付、校内ネットワークの活用により、会議の準備の省力化やペーパーレス化など効率的な実施を図る。	
2	学校行事の負担軽減	学部行事や交流行事が多く、準備や運営における負担が大きい。	行事の内容・準備を精選・簡略化し、負担の軽減を図る。	① 行事の改善点を挙げ、次年度の計画（精選）に反映する。 ② 学部間の連携を強化し、主事・主任を中心とした協働体制や学部相互の協力体制を推進する。	
3	校内組織の見直し	係分掌の数が多く、人数を分散しなければならない。	校内の組織を見直し、業務量の平均化を図る。	① 校内の組織を見直し、教員の仕事量の負担を軽減する。 ② 校務組織の見直し、構成員の検討を行う。	
4	業務の効率化	退校時間が遅くなりがちな職員がいる。	業務を効率化し、定時退校ができる環境を作る。	① これまでの業務経験や蓄積を生かし、効率化を図る。 ② ICTを活用したり、遅くならないような協力体制を作る。	
5	部活動の負担軽減	部活動の顧問が放課後の部活動に携わり、業務に取り組みにくい。	全職員の理解を得て、全職員での協力体制を図る。	① 中学部高等部合同の指導運営体制により顧問の数を増やすとともに、練習の計画について見直しを行う。 ② 部活動ガイドラインを積極的に活用する。	
6	地域人材の活用	地域との交流が、決まった学校行事等に限られている。	さまざまな面で地域人材の積極的な活用を図る。	① 授業や学部行事、学校行事などで、地域人材の活用を促進し、さらに交流や協力体制を図る。 ② 外部人材やボランティアの活用を検討する。	
7	(学校独自の項目) 職員の意識啓発	ワークライフバランスに対する意識が高い職員もいるが、低い職員もいる。	ワークライフバランスの意識を職場全体に啓発していく。	① 出退勤記録を活用し、学校全体としてワークライフバランスに対する職員の意識を啓発する。 ② ストレスや多忙感がないように教職員の心のケアをおこなうため職員間の相談・支援体制を確立4する。	

※達成状況：次のA～Dで評価し、各年度末に県立学校は県教育委員会へ、公立小中学校は市町村（組合）教育委員会へ提出する。

A 達成できた    B ある程度は達成できた    C あまり達成できなかった    D 達成できなかった